

平山さんの絵に安らぎを

美浜で10日まで版画展



深みのある青が印象的な平山さんの作品
＝美浜町生涯学習センターなびあすで

日本画家で文化勲章受章者の故平山郁夫さん（一九三〇～二〇〇九年）の代表作を中心に展示する版画展が、美浜町生涯学習センターなびあすで開かれている。十日まで。

平山さんは十五歳の時に広島市で被爆し、白血病などに苦しむ中で「平和への祈り」をテーマに活動。日本文化の源流を求めて百五十回以上にわたりシルクロードに遠征し、仏教伝来や東西文化交流を題材に数々の作品を残した。国連教育科学文化機関（ユネスコ）の親善大使としても活動し、各国の文化財の保護などに精力的に取り組んだ。

会場には平山さんの原画をもとにした版画などおよそ五十点を展示。シルクロードに取り組みきっかけとなった出世作「仏教伝来」や、鉱物のラピスラズリをもとにした顔料を用いて「平山ブルー」と呼ばれる深みのある夜の世界を表現した「パルミラ遺跡を行く・夜」などが並ぶ。作品はすべて購入でき、収益の一

部はユネスコを通じて東日本大震災の被災者やウクライナ避難民の支援に使われる。

このほか、「今年の漢字」で有名な清水寺の森清範貫主の書や、平山さんと同時代に活躍した画家東山魁夷らの版画約三十五点もある。版画展を企画したほるぶエーアンドアイ（大阪府）の代表取締役市原清人さん（あむ）は「心安らぐ作品を見て平和への祈りを新たにしてほしい」と呼び掛ける。
（林侑太郎）